



令和元年8月31日@市民学習センター

まちづくりラウンドテーブル

ワークショップ詳細

参加者：西部（高津・西益田・小野・中西・美濃・二条・匹見上・匹見下）

40名

平成28年度より開始された市民と行政の“対話の場”、“学びの場”である「まちづくりラウンドテーブル」（通称[MRT]）。今年度第1回目は「協働のまちづくりについて考えよう」を実施し、地域自治組織、NPO法人からも出席いただき、協働について議論しました。

令和元年10月 益田市協働推進ネットワーク庁内会議

1. 挨拶

2. 協働を考えるために

ワークショップの前に市人口拡大課より、協働について説明いたしました。

3. 自己紹介

4. ワーク①：安心して暮らすために必要なアクションを共有しよう

安心して暮らすために必要なことで、どんなことを取り組んでいるかなど付箋に書き出し共有しました。

5. ワーク②：活動していること、これからできそうなことを考えよう！

6. ワーク③地域で誰と誰が協働したらよいかを考えよう！

7. 情報共有

「私たちだったらこうするプラン」を作成し、全体に共有しました。

8. 閉会



Aグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

草刈り、溝ざらい で見通しをよくす	高齢者世帯への訪問・ 見守り・声かけ	学生に向けての自 転車教室	登下校の見守り
避難所、避難経路 の確認	不審者情報の共有	空家情報の集約	外来動物の対策
車以外の代替交通 の利便性の確保	公共交通の充実	若い世代の職場以 外でのつながりづ	多世代が集う地域 行事
登下校時間に合わせた 散歩	溝蓋や道路の段差に 目印を置く	避難場所、避難情報が一目で分 かる看板づくり	

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	高齢者に優しい街づくり
関連団体	石見交通、J A 老人クラブ、青年団、PTA、NPO 行政 女性部、グランドゴルフクラブ

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション	おでかけシェア
誰が（誰と誰が）	何をするか？・仕組み・対策案
自治会、自治組織 一般企業 利用者	自治会、自治組織：情報をインターネットを通して提供 企業：交通手段を提供する代わりに買い物をしてもらう 利用者：企業から交通手段を得て買い物をする



Bグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

避難経路の確認	過去の災害の具体的な情報	高齢者の生活補助	地域住民がいつでも集える場所づくり
冬場の雪かき作業	草刈り等の環境整備	空き家の把握と有効活用	子どもの見守り
鳥獣対策	独居老人宅への声かけ	防災計画と意識の見直し	子どもの居場所づくり
振込み詐欺の防止	買い物・病院等の送迎	隣接地区との共同作業	

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	高齢者の支援
関連団体	自治会 見守り隊、ボランティア団体 民生委員 行政 保育園、学校 郵便局、宅配業者、新聞配達 企業

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション	高齢者の見守り
誰が（誰と誰が）	何をするか？・・仕組み・対策案
地域住民 子ども ボランティア 地域団体 企業 行政	地域住民：意識的に声かけを行う 子ども：地域で挨拶を行う 地域の方との交流会に参加する ボランティア：配食ボランティアを行う 地域団体：定期的に出かける場をつくる 企業：日々の配達業務時に様子を見る 行政：情報の集約を行う



Cグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

避難場所の確認	自主防災組織	独居老人の見守り	声かけシステムづくり
医療制度の充実	街灯の増設	鳥獣対策	草刈り
地域の人と子どもが交流できる場	ボランティアに参加しやすい仕組み	清掃活動	空家対策
木こりが必要	交通マナーの向上	山間部における冬季の除雪	登下校の見守り

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	生活環境整備
関連団体	学校 森林組合、山林業者、建設業者、漁業者 NPO、行政 マスコミ

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

テーマ

木こりを増やそう

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・仕組み・対策案

消費者
建設業者
企業
学校

消費者：日本家屋を建てる
建設業者：日本の木をすすめる
企業：日本の木を海外へ
学校：小中高での段階をふんだ教えが必要
地域人の講習を行う



Dグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

免許返納者への支援	交通手段の確保	近所の人と話会える場所づくり	若者のネットワークづくり
地域施設を活用するためのマップ作	子どもの登下校の見守り	草刈り 溝掃除	心身の健康増進をはかる
助け合いグループの立上げ	買い物支援	農地再生	健康体操をする
老々ボランティア	高齢者と若い世代の交流を増やす	鳥獣対策	住民がやりやすいしくみ作り

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	地域での助け合い
関連団体	行政、自治組織 企業 自治会、町内会 婦人会、老人会、若者会、子ども会 民生委員 サロン 学校

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション

助け合いグループの立上げ

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・・仕組み・対策案

地域団体
学校
企業
自治組織

地域団体：地域内に周知、呼びかけをし情報共有を行う
学校：ボランティア等活動に参加する
行政：助成金、情報発信を行う
企業：自治組織を支援する
自治組織：助け合いグループを立ち上げる



Eグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

ふるさと文化の継承	地域の担い手づくり	跡地利用	買い物支援
防災マップ 防災確認	子どもの登下校の	通学路の安全確保	防犯カメラの設置
地域の人を知る	自主防災組織の設立	勤務中の情報共有システム	若者チームの設立
SNSを活用した地域のPRなど情報発信	子ども部会の設立	地区のにぎわいづくり	交通手段の確保

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	つながりづくり
関連団体	自治会、地域自治組織、公民館、行政 学校、PTA つろうて子育て協議会、中山間地域研究センター 老人クラブ 民間の財団

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション	若者・子どもチームの設立
誰が（誰と誰が）	何をするか？・・仕組み・対策案
<u>地域自治組織</u> <u>行政、公民館</u> <u>学校、PTA</u>	地域自治組織、行政、学校が連携して地域のために出来ること、自分たちがやりたいことをする

